

2022年4月26日（火）

老球の細道666号

### 部活動の将来

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本のスポーツ文化を支えてきた中学校の運動部活動が大きな変革期を迎えた。これまで学校単位で参加するのが原則だった全国中体連大会に、来年度から地域のクラブチームやプロチームのユース（U-15）チームが出場できるようになるという。だから、全国大会に準じて、県大会、地区大会も同様の措置となる。聞くところによると、県によって試行期間として今年度の新人戦から取り入れるところもあるらしい。福島県はどうなるだろう。

このような「門戸開放」施策がなされるようになった背景には我が国の「少子化」問題と教員の「働き方改革」の必要性がある。

少子化は学校の廃校、統合のみならず、部活動の廃部にもつながり、中学校でやりたい部活動がなくて別な部活動で活動しなければならないケースが続出。そのために地域のクラブチームに加入するが、中体連大会に出場できない「不都合な真実」があった。

教員の働き改革の問題については、部活動指導の問題が大きくクローズアップされている。私は部活動の指導がしたくて教員の道に進んだが、現在は部活動の指導を負担に思っている先生が増加している。特に土、日曜日の指導や専門外の部活動を担当させられる顧問の先生の時間的、肉体的、精神的負担は相当のものらしい。

だから、生徒たちがクラブチームから大会参加が可能になればより多くの大会出場の間ができる。また、生徒の日常のスポーツ活動を地域クラブに移すことができれば教員の負担減少になり、本来の授業に全集中できるという。生徒も先生もウインウインになる。

しかし、課題もいくつかある。

土、日曜日おける大会運営をどこが主管するのか。中学校の先生が行うのか、クラブ関係者か。会津地区の場合は中体連と協会がほぼ同一なので問題はないかもしれないが……。1選手が複数チームに所属する場合の参加条件をどうするのか。そして、今から予測されることであるが、選手の所属が自由になるクラブチームなどでは、一時的に有力選手を集めて勝利至上主義に拍車をかける流れを強めるのではないだろうか。

これらの課題に対して中体連関係者がこれから1年かけて議論を深めていく。またこの流れはいずれ高校にも襲いかかってくることだろう。高校の先生方もいずれやって来る問題に対して準備しておいてほしい。高校のインターハイ、ウインターカップに福島ファイヤーボンズのU-18チームが参加するようになるのも時間の問題か。

学生時代の部活動は人間形成、人間関係の向上などに大きなメリットがある。一方、勝利至上主義、理不尽な上下関係、やり過ぎによるケガ、勉強時間不足などのデメリットもある。しかし、適切な指導による活動であれば、好きなことを徹底して行うことによって有意義な人生を送ることに必ず役に立つはずである。

部活動は日本固有のスポーツ文化である。肩身の狭い思いをしないで活動させてほしい。